

府立高校入試

府教委「方針(案)」発表

前期
後期

二回を原則一回へ

府教委は、府立高校の入試制度を改め、これまでの前期(2月)、後期(3月)の2回実施から、2016年以降原則として1回(3月)に戻す「方針(案)」を発表しました。
 【今後各方面の意見を聞いたうえで、11月に最終決定するとしています。】

今春の前期入試

54% (2万5千人)

不合格

大阪府では前期(2月)、

後期(3月)入試が20

03年から行われました。

今春の最高倍率は8・

18倍、前期の平均倍率は

2・18倍にのぼり、2万

5千人以上が不合格にな

りました。

受験生への負担や「不

合格」という挫折感、在

校生への学習指導への影

響などが指摘され、多数

の改善を求める声があがっ

ていました。

【改善点】

入試日程

3月に原則一本化

現在の前期・後期の複

数回入試を、原則後期

(3月)に一本化し、

「技能や意欲を重視する」

一部の学科(総定員の3

%程度の見込み)でのみ、

現在の「前期」とほぼ同

時期の「特別選抜」を実

施するとしています。

大教組、泉北教組は、

当初から「2回入試は多

くの中学生に『不合格』

の烙印を押し、入試業務

の増大により教職員の負

担をさらに過重にする、

誰にとってもメリッとの

ない制度」と批判し、父

母・府民とともに入試の

早期一本化を求めてきま

した。今回の「方針(案)」

は、遅きに失したとはい

え、この点については評

価できるものです。



問題点

客観性・公平性に

重大な懸念

◆「自己申告書」

「アドミッシヨンポ

リシー」導入

「方針(案)」は、基本

理念の一つに「高校が自

校のアドミッシヨンポリ

シー(求める生徒像)に

適う生徒を求めることが

できること」を掲げ、新

たに全受験生に「自己申

告書」を提出させ、中学

調査書に詳細な「活動／

行動の記録」欄を設け、

選抜資料にするとしてい

ます。

そもそも、子どもたち

の学ぶ権利を保障するべ

き公立学校が「求める生

徒像」で選抜を行うなど

はきわめて不適切です。

しかも「自己申告書」

と「活動／行動の記録」

はどちらも客観的な評価

は困難であり、入試の客

観性・公平性を損ないま

す。中学、高校の教職員

よりよい制度 引続き要求

2回入試の見直しは当然です。それは改善を求めた父母・府民や教職員の取組みの成果です。

しかし、問題の多いボーダーゾーンを維持し、自己申告書と調査書の内容で入試総合点の順位にかかわらず優先的に合格させることができたり、調査書の対象を中学1年に拡大するなど、いっそうの受験競争激化をもたらすものです。

自己申告書の書き方などで塾・産業等の参入と新たな「教育格差」を招く重大な問題も含んでいます。

【大阪教職員組合 教文部長 談話】

の新たな負担となります。

また、2016年度か

ら中学調査書の評定を

「絶対評価」にするとし、

経過措置を設けて中学1

年・2年の評定も選抜

に用います。これは入試

の「前倒し」であり、中

学校教育に重大な影響を

与えることは明らかです。

◆エンパワメント

スクールの問題

エンパワメントスクー

ルの入試が「特別選抜

(前期)」に位置づけ

られたことは、「学び直

しのためのセーフティネッ

ト」との趣旨にそぐわな

序列化すすめる中学「統一テスト」中止を

◆複数学科併置校での

複数学科志望

「第1志望の受験生よ

り総合点が高い第2志望

の受験生を上位者と見る」

とされていますが、これ

によって「普通科は文理

科の滑り止め」などの状

況が生まれかねず、学校

内での学科序列が歴然と

なる恐れがあります。

子どもたちのために、最善の教育条件を確保しよう！

泉北教組への加入をうったえます。